

宇美町

エコトリコ

(2020年広報3月号)

宇美町にお住いの皆さんいかがお過ごしですか？今月号の原稿は、2月中旬に書いています。今、最も気になる問題は、年明け早々に世界中を危機感で覆ってしまった、新型コロナウイルスの感染拡大による肺炎感染者数の増大です。12月に中国で「2002」3年に流行した重症急性呼吸器症候群（サーズ）に似た新型肺炎ではないか？」と言われ出して約1か月後には、感染者数は1万人を超え、2月13日時点には4万人を超え、亡くなった方は千人を超えています。宇美町のスーパーマーケットやホームセンターでは、マスクがあつという間に売り切れ続出で、店員さんも「いつ、どれだけ入荷するかわかりません」という状態になっています。WHOは、当初、「感染率・致死率が低く緊急性はない」としていましたが、その後、緊急事態宣言を発表しました。

一方で、地球温暖化について、昨年1年間の平均気温が過去最高クラスに高かったことや、山口県を含む九州北部の1月の平均気温が平年より2.9℃高く、この数値は統計を開始した1946年以降1月としては最も高かったと発表しています。初雪観測が観測史上最も遅かった佐賀市が3.3℃高くなっており、他の都市でも過去最

高または、1位と同温であったりしていましたが、福岡市では1890年の統計開始以来最も遅い1909年の初雪の記録（2月6日）を111年ぶりに更新しました。ひよつとしたら、史上初の雪なし年となる可能性もある見込みです。同時期の夏季の南極では、18.3℃というありえないような気温が記録されています。近年ではシベリアだけではなく、アラスカの方でも永久凍土地域の減少が確認されています。

永久凍土には、凍った大昔の動物や植物の死骸があります。永久凍土が解けると、死骸から発生するメタンガスの増大が懸念され、ますます地球温暖化に拍車がかかってきます。温暖化による海水温度の上昇と酸性度の上昇は、地球を取り巻くジェット気流のコースを変え、それによる台風の遅速化を引き起こしています。このことは、台風が長く被災地に居座ってしまうことを意味しているのです。のウィルス対策も大切ですが、50年後・100年後に生活をする人たちのことを考えることも大切です。

私たち一人一人は微力であっても無力ではありません。

文責 福岡県地球温暖化防止活動

推進員 竹吉 栄隆

